

地域住民・市民団体との連携

8. 空き店舗を活用し、多様な取組でまちなかに若者を呼び込む取組

池田町商工会

■ 地域の概要・現状

池田町は「十勝ワイン」や「いけだ牛」などで有名なまちであるが、郊外へ消費が流出するなど、中心市街地の商店街では、空き店舗の増加や経営者の高齢化が進んでいる。

■ 空き店舗をコミュニティスペースへ

池田町商工会では、平成27年から「空き店舗活用プロジェクト」を開始。所有者の協力を得て、固定資産税と火災保険料相当額で賃貸し、セルフDIYで改装を行い、コミュニティスペース「ポンテ」を開設した。子どものための放課後サロン、チャレンジショップ、私設図書館、映画上映会、バー、ミニ四駆大会など、様々なイベント等に活用。平成27～29年で延べ2,759人が利用している。

各取組は商工会のほか、町、社会福祉協議会、池田高校ボランティア部など多様な主体と連携して実施。有志が話し合っ、自分たちがやりたい取組を始めると、それに興味を持つ人が参加し、交流の輪が広がっている。



[さまざまなイベントが開催されるポンテ]

商店街ではポンテを活用し、まちゼミや、複数店共同で生鮮食品の需要調査等を実施している。

満月の夜に開催する「フルムーンBAR」は、カードゲームや駄菓子など担当者が趣向を凝らしたバーを企画。20時頃には終了して近隣の飲食店の利用を促し、飲食店側は参加者限定のサービスを提供するなど、地域が連携して取り組む。

■ ボルダリングジムの開設

平成28年に全国商店街支援センターのトータルプラン作成支援事業を活用し、商店街活性化計画づくりに取り組んだところ、子供や若者が集まる拠点が必要との意見が多くあった。

町の地域おこし協力隊には、中心市街地の賑わい創出や移住者への情報提供等に取り組む「町おこし推進員」があり、ログハウスづくりとボルダリングのノウハウのある隊員の指導の下、有志が集まり改装を行った。



[ボルダリングを楽しむ利用者]

ボルダリングジム「レッドポイント」は平成29年5月にオープンし、12月末までに延べ954人が利用。町外愛好者の利用も多い。

改装費用は商工会と地元企業の寄付により賄ったが、運営は独立採算で行い、10数名の運営委員会メンバーがシフトを組み対応している。

■ 今後の課題・展望

商店街に空き店舗を活用したゲストハウスを作り、ポンテやレッドポイントの利用者が町内の飲食店を訪れ、ゲストハウスに泊まるなど、まちなかに滞留してもらう仕掛けを検討している。

また、情報発信が不足しているため、SNSの活用や、映画研究会による商店街のCMづくりの取組等を検討している。

取材先 ■ 池田町商工会（中川郡池田町大通1丁目35番地）

TEL 0155-72-2135

HP <http://www.tokachi-ikeda.or.jp/>